

株主通信

WINTER 2014

93号

特集

2015年3月期  
第2四半期  
決算報告

目次

- 01 株主の皆さまへ

---

- 03 クローズアップ  
新体制発足：  
グループ会社社長に聞く！

---

- 05 クローズアップ  
世界トップシェアを  
誇る SCREEN の製品

---

- 06 連結決算ハイライト

---

- 07 主要事業別レポート

---

- 09 (要約)連結財務諸表

Fit your needs, Fit your future

期待に応えて、未来を形に・・・

SCREEN NOW

SCREEN



## 京都発、世界初を、これからも。

「思考展開」の理念のもと、いくつもの世界初を創ってきた「大日本スクリーン製造株式会社」。

これまでの70年の歴史を礎に、

「株式会社 SCREENホールディングス」として、さらなる発展を目指していきます。

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループは、2014年10月1日をもって持株会社体制へ移行し、それに伴い大日本スクリーン製造株式会社は、株式会社 SCREENホールディングスへ商号変更いたしました。

強い事業をさらに強くするとともに、新規事業創出を加速し、持続的に成長できるグループを目指します。

## 京都発、世界初を、これからも

当社は創立70年、前身である石田旭山印刷所から数えると146年の歴史があります。この間、「思考展開」という経営理念のもと、常に時代のニーズやお客さまのニーズ、社会の変化に応じて自分たちの技術を応用展開し、世界初の技術・製品をいくつも生み出してきました。「ガラススクリーン」と呼ばれる写真製版の機材からスタートした当社の事業は、現在、半導体機器、印刷・プリント基板関連機器、FPD機器の3つの分野にわたります。

事業環境が大きく変化する中、独自のコア技術とオープンイノベーションによって、強い事業をさらに強くするとともに、成長に向けた新規事業を創出することが、今後の課題です。SCREENホールディングスへの社名変更には、当社の全世界・全製品共通のロゴであり、世界品質を証するブランドネームとなっている「SCREEN」を前面に出すことで「日本」から「世界」への意識をより一層高める意図もあります。

これからも、株式会社SCREENホールディングスとして、「京都発、世界初」の技術創出への挑戦を続けます。

## 2015年3月期第2四半期累計期間の業績

当上半期における当社グループを取り巻く事業環境は、半導体業界においては、スマートフォンの需要拡大を背景とした微細化投資の継続により、半導体メーカーの設備投資は堅調に推移しました。FPD業界においては、テレビ用液晶パネルの中国への生産シフトが進みました。印刷関連機器においては、欧米市場に需要回復の動きが見られました。

このような状況の中、当社グループの売上高は1,124億円と前年同期に比べ13億円(1.2%)増加しました。利益面では、前期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより固定費が増加したものの、変動費の削減や半導体機器事業

の製品構成の変化などにより、前年同期に比べ、営業利益は37億円(122.1%)増加の67億円となり、経常利益は39億円(150.1%)増加の65億円となりました。四半期純利益は46億円と前年同期に比べ30億円(198.3%)増加しました。

## 通期業績の見通し

上半期の業績と半導体機器事業の受注回復の期待から、通期業績予想を前回予想(8月5日発表)から上方修正し、売上高2,420億円、営業利益147億円、経常利益142億円、当期純利益112億円といたしました。

また、2015年3月期の年間配当は、前回予想どおり、1株当たり5円(期末配当金)を予定しております。

## 2015年3月期連結業績予想

(単位:億円未満切捨)

	2015年3月期 (前回発表予想)	2015年3月期 (今回修正予想)	2014年3月期 (実績)
売上高	2,410	2,420	2,359
営業利益	112	147	89
経常利益	105	142	83
当期純利益	83	112	54

株主の皆さまのご期待にお応えできるよう、新体制のもと、さらなる飛躍を目指して、持続的に成長できる強いグループを目指します。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長 最高経営責任者(CEO) 石田 明  
取締役社長 最高執行責任者(COO) 垣内 永次

# 新体制発足：グループ会社社長に聞く！

持株会社体制移行により、半導体機器事業、印刷・プリント基板関連機器事業、FPD機器事業を承継した事業会社3社と、製造支援および製造請負と、総務・経理などのシェアードサービス\*業務を承継した機能会社2社の、計5社が子会社として新たに発足しました。各社の社長と事業内容、今後の方針をご紹介します。

株式会社 SCREEN セミコンダクターソリューションズ



顧客視点の  
イノベーションで  
収益力アップを実現  
します

半導体機器

須原 忠浩  
代表取締役社長

当社は、半導体デバイス製造工程で欠かすことのできない洗浄・エッチングのほか、レジスト塗布・現像・熱処理、検査・計測など、幅広い装置やそれに伴うサービスを提供しています。

SCREENグループの原点であるフォトリソグラフィをコア技術に、洗浄装置で確固たるシェアを築いており、さらにコーターデベロッパのラインアップを強化するなど、当社の既存技術を総合的に応用し、積極的に技術開発を進めています。

変化の激しい半導体市場において、これからも「高品質な製品やサービスを通じて、お客さまの事業に貢献し続ける」ことを基本方針とする、真の顧客視点のイノベーションで収益の安定と向上を実現します。

株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ



成長分野に  
ソリューション\*を  
提供し、事業の拡大  
を図ります

印刷・プリント基板関連機器

青木 克彦  
代表取締役社長

当社は、印刷工程で使用されるさまざまな機材やサービスを提供する印刷関連機器事業と、電子部品を固定して配線するためのプリント基板を製造する装置やサービスを提供するプリント基板関連機器事業を行っています。

印刷関連機器事業では、少部数・短納期・在庫レスの印刷に適したPOD装置とともに、紙以外への印刷に使われるPOD装置にも注力しています。また、消耗品販売やサポートサービスなどの「循環収入モデル」のビジネスを強化し、売上拡大と安定収益につなげていきます。プリント基板関連機器事業では、価格競争力の高い直接描画装置の投入や、検査装置の新機種開発、露光と検査装置を組み合わせた工程改善ソリューション\*の提案により、事業を拡大していきます。

\*ソリューション(Solution): 解答、解決(策)などの意味。ここでは、お客さまの抱える問題を解決したり、お客さまの要望・要求を満たしたりする製品やサービス、およびその組み合わせのことを指す。



## 市場環境の変化に 対応し、新規事業の 創出を加速します

FPD 機器およびその他装置関連

(左)  
**林 隼人**  
会長

(右)  
**廣江 敏朗**  
代表取締役社長

当社は主に、液晶テレビやスマートフォンなどのフラットパネルディスプレイ（FPD）のパネル製造工程でキーとなる各種装置およびそれらに対するサービスを提供しています。

既存のFPD機器事業の収益改善とともに、新規事業を急ピッチで立ち上げています。現在開拓を進めているのが「ウェット成膜・ドライ成膜」分野です。ウェット成膜は、液晶コーターデベロッパで長年培ってきた、基板に薄く均一に多様な材料をコーティング（塗布）する技術で、現在、リチウムイオンバッテリー製造装置などへの応用展開を進めています。また、ドライ成膜は、高密度のプラズマ源を使って、高品質な薄膜を均一かつ高速に成膜する技術で、太陽電池、建築材、有機EL照明など、多様なアプリケーションへの応用展開を進めています。市場の変化に対応すべく、新たなビジネスチャンスを経営的に創出していきます。



## 製造受託会社として グループの収益性 向上に貢献します

製造支援および製造請負

**嶋治 克己**  
代表取締役社長

当社は、グループ事業会社の製造をサポートすると同時に、新規事業の製造受託や製造支援、ものづくりノウハウの蓄積・伝承に取り組み、グループ全体の収益性向上とキャッシュアウト削減を目指します。



## シェアードサービス 会社として業務の 効率化を追求します

シェアードサービス※

**河原林 正**  
代表取締役社長

当社は、SCREENグループの総務・人事・経理・情報システムなどの共通業務を担います。各業務の専門家集団として、グループ各社をサポートするほか、業務プロセスの標準化と効率化に取り組み、コストダウンを図り、グループ全体の業務効率・価値向上を支援します。

※ シェアードサービス：グループ企業や企業の事業部ごとの人事や経理などの間接業務を1つの組織に集約することにより、業務の効率化を図る手法。

## 世界トップシェアを誇る SCREEN の製品

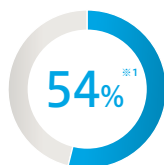
当社グループは、半導体機器、印刷・プリント基板関連機器、FPD 機器の各事業において世界トップシェアを誇る、表面処理、直接描画、画像処理をコア技術とする当社ならではの競争力のある製品を開発しています。

### 半導体機器

#### 1 枚葉式洗浄装置

薬液をスプレーして、ウエハーを1枚ずつ洗浄する装置です。

2013年世界市場シェア No.1

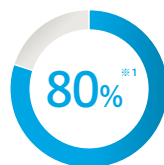


枚葉式洗浄装置「SU-3200」

#### 2 バッチ式洗浄装置

複数枚のウエハーを、一度に薬液などに浸して洗浄する装置です。

2013年世界市場シェア No.1

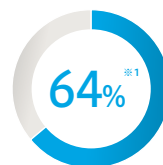


バッチ式洗浄装置「FC-3100」

#### 3 スピンスクラバー

ウエハーの表面を柔らかいブラシと純水で洗浄する装置です。

2013年世界市場シェア No.1



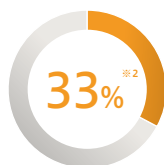
スピンスクラバー「SS-3200」

### 印刷・プリント基板関連機器

#### 4 CTP装置

印刷データから印刷用刷版を直接出力する装置です。  
(CTPはComputer to Plateの略)

2013年世界市場シェア No.1



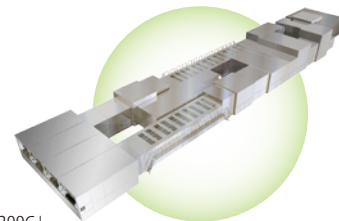
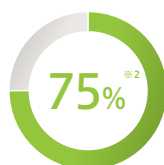
CTP装置「PlateRite HD 8900Z」

### FPD 機器

#### 5 コーターデベロッパー

レジスト(感光液)をガラス基板上に均一に塗布し、現像する装置です。

2013年世界市場シェア No.1



コーターデベロッパー「SK-2200G」

(注) シェアは機種群総数に基づき算出。暦年表示。

※1. データ出典：Gartner, "Market Share: Semiconductor Equipment, Worldwide, 2013" 31 March 2014. Revenue from Shipments of Single-Wafer Processor, Auto Wet Stations and Scrubbers, Worldwide, 2013. グラフはガートナーのデータをもとに当社作成。  
ここに述べられたガートナーのレポート(以下「ガートナーのレポート」)は、ガートナーの配信購読サービスの一部として顧客向けに発行されたデータ、リサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この報告書発行時点のものではありません。またガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

※2. 台数ベース。当社調べ。

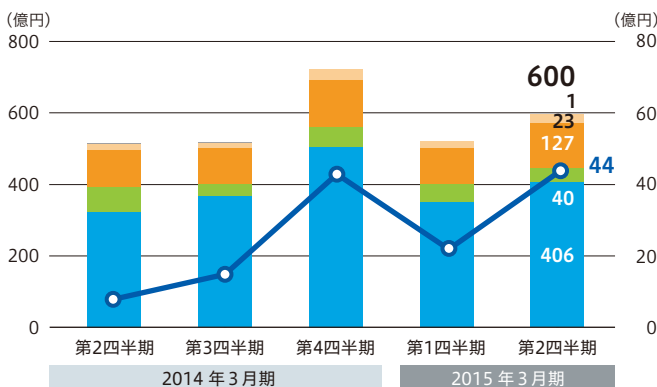
## 2015年3月期連結経営成績

(単位：億円未満切捨)

	第1四半期 2014年4月1日から 2014年6月30日まで	第2四半期 2014年7月1日から 2014年9月30日まで	前年同期 2013年7月1日から 2013年9月30日まで	第2四半期累計期間 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	前年同期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで
売上高	524	600	518	1,124	1,111
営業利益	22	44	8	67	30
経常利益	23	42	3	65	26
四半期純利益	15	31	△1	46	15

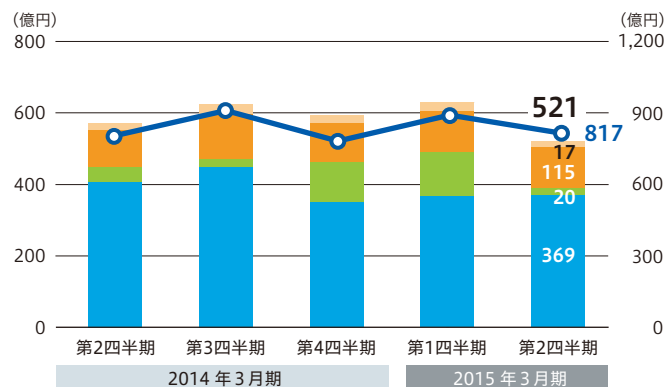
### 売上高・営業利益

■ 半導体機器事業 ■ FPD機器事業 ■ メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業  
 (■ 印刷関連機器 ■ プリント基板関連機器) ■ その他 ● 営業利益[右目盛]



### 受注高・受注残高

■ 半導体機器事業 ■ FPD機器事業 ■ メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業  
 (■ 印刷関連機器 ■ プリント基板関連機器) ■ その他 ● 受注残高[右目盛]



### 2015年3月期連結業績予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	2,420	147	142	112

### 配当予想

2015年3月期の期末配当につきましては、1株当たり5円を予想しています。

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表記しております。

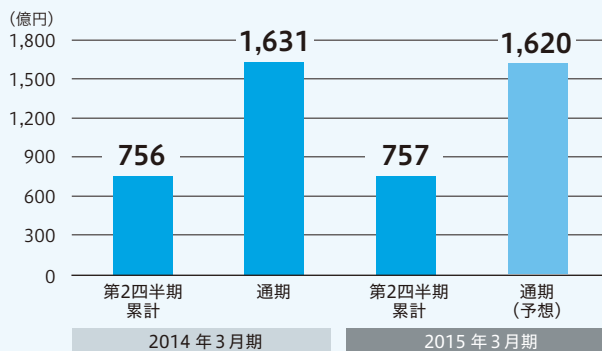
## 半導体機器事業

### 当期の業績(第2四半期累計期間)

**売上高** 757億円(前年同期比 0.1%増)

**営業利益** 62億円(前年同期比 115.6%増)

### 売上高



半導体メーカーの投資時期の影響もあり、ファウンドリーの投資は減少しましたが、ロジック向けの投資が増加したことなどにより、売上は前年同期並みとなりました。営業利益は、前期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより人件費や研究費などの固定費が増加したものの、変動費の削減や製品構成の変化などにより、前年同期に比べ大幅増となりました。

### 今後の見通しと取り組み

第3四半期は、メモリーの好調継続に加えて、ファウンドリーがけん引し、受注増を見込んでいます。微細化投資により、堅調な市場環境の継続を予想しています。コストダウンや、主力製品である枚葉式洗浄装置「SU-3200」の拡販をはじめとするプロダクトミックスの改善などにより、さらなる収益改善に取り組みます。

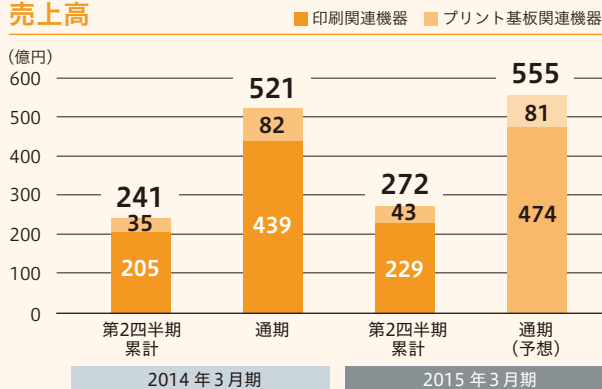
## メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業

### 当期の業績(第2四半期累計期間)

**売上高** 272億円(前年同期比 13.1%増)

**営業利益** 19億円(前年同期比 87.3%増)

### 売上高



印刷関連機器については、海外を中心にCTP装置とPOD装置の需要が回復したことから、前年同期に比べ売上が増加しました。プリント基板関連機器については、スマートフォンの旺盛な需要を背景に、主力の直接描画装置の売上が増加したことにより、前年同期に比べ売上が増加しました。営業利益は、前期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより、人件費や研究費などの固定費が増加したものの、売上が増加したことなどにより、大幅に改善しました。

### 今後の見通しと取り組み

国内を中心にCTP装置の入れ替え需要継続と、欧州を中心とするPOD装置需要の回復により、第3四半期も好調な受注・売上状況を見込んでいます。欧米を中心に、PODのマーケティングをさらに強化し、印刷のデジタル化需要の取り込みを図ります。



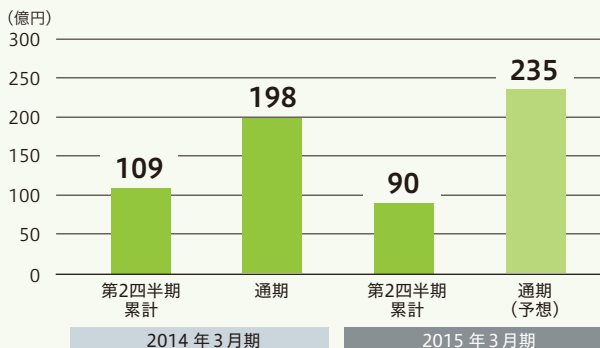
## FPD 機器事業

### 当期の業績(第2四半期累計期間)

**売上高** 90億円(前年同期比 17.4%減)

**営業損失** △2億円(前年同期は1千万円の営業利益)

### 売上高



海外向けの売上は前年同期並みで推移したものの、国内向けが減少したことから、前年同期に比べ売上減となりました。営業利益は売上が減少したことなどにより、営業損失となりました。

### 今後の見通しと取り組み

前2四半期(2014年1～6月)続いた好調な受注は8月時点の想定どおり一服しましたが、第3四半期以降は中小型パネル用製造装置などの受注回復を見込んでいます。中国の投資は大型パネルから中小型パネルへシフトすることが予想され、台湾でも投資再開の動きが見られます。

## 用語解説

### ファウンドリー：

半導体の受託生産を行う企業。

### ロジック：

半導体の一種で、演算や命令などを行う。

### メモリー：

半導体の一種で、データを記憶する。

### 枚葉式洗浄装置：

ウエハーを1枚ずつ処理する洗浄装置。

### CTP：

Computer to Plateの略。印刷するデータをコンピューターから印刷用プレートに出力し、印刷版を作成する方法。

### POD：

Print on Demandの略。必要なときに必要な部数を印刷すること。

### 直接描画装置：

回路パターンを高速・高精細に直接描画(露光)する装置。従来の露光方式に比べ、納期の短縮やコストの大幅な削減が可能。

### プロダクトミックス：

製品の構成・組み合わせ。

## (要約)連結財務諸表

### 連結損益計算書

(単位：百万円未満切捨)

科目	第2四半期累計期間	
	2015年3月期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	2014年3月期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで
<b>① 売上高</b>	<b>112,490</b>	<b>111,141</b>
売上原価	79,488	84,546
売上総利益	33,001	26,595
販売費及び一般管理費	26,262	23,560
<b>② 営業利益</b>	<b>6,739</b>	<b>3,034</b>
営業外収益	683	693
営業外費用	867	1,107
<b>③ 経常利益</b>	<b>6,554</b>	<b>2,620</b>
特別利益	0	10
特別損失	—	5
税金等調整前四半期 純利益	6,555	2,626
法人税等	1,871	1,084
少数株主損益調整前四半期 純利益	4,684	1,542
少数株主利益(△損失)	32	△17
<b>④ 四半期純利益</b>	<b>4,651</b>	<b>1,559</b>

### 連結包括利益計算書

(単位：百万円未満切捨)

科目	第2四半期累計期間	
	2015年3月期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	2014年3月期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで
少数株主損益調整前四半期 純利益	4,684	1,542
その他の包括利益	3,797	4,387
四半期包括利益	8,482	5,929
(内訳)		
親会社株主に係る四半期 包括利益	8,451	5,936
少数株主に係る四半期 包括利益	30	△6

## ポイント

### ① 売上高

メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業の売上が増加したことなどにより、売上高は1,124億円と前年同期に比べ13億円(1.2%)増となりました。

### ② 営業利益

前期に実施した緊急対応策の解除や為替の円安影響などにより固定費が増加したものの、変動費の削減、半導体機器事業における製品構成の変化などにより、営業利益は67億円と、前年同期に比べ37億円(122.1%)の増加となりました。

### ③ 経常利益

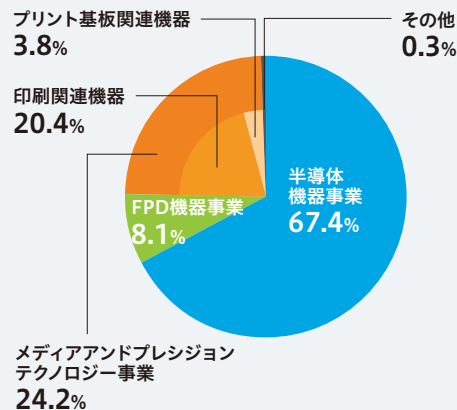
経常利益は65億円となり、前年同期に比べ39億円(150.1%)増加しました。

### ④ 四半期純利益

四半期純利益は46億円となり、前年同期に比べ30億円(198.3%)増加しました。

## 事業セグメント別売上高構成比

(2015年3月期第2四半期累計期間)



## 連結貸借対照表

(単位:百万円未満切捨)

科目	第2四半期末	
	2015年3月期	2014年3月期
	2014年9月30日現在	2014年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	159,857	157,326
固定資産	80,773	75,049
有形固定資産	41,387	40,710
無形固定資産	2,329	2,406
投資その他の資産	37,057	31,932
<b>⑤ 資産合計</b>	<b>240,631</b>	<b>232,376</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	99,100	114,367
固定負債	45,548	30,911
<b>⑥ 負債合計</b>	<b>144,648</b>	<b>145,278</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	93,347	88,201
その他の包括利益累計額	2,047	△1,752
少数株主持分	587	649
<b>⑦ 純資産合計</b>	<b>95,982</b>	<b>87,097</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>240,631</b>	<b>232,376</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円未満切捨)

科目	第2四半期累計期間	
	2015年3月期	2014年3月期
	2014年4月1日から 2014年9月30日まで	2013年4月1日から 2013年9月30日まで
<b>⑧ 営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△12,419</b>	<b>7,695</b>
<b>⑨ 投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△3,175</b>	<b>△2,800</b>
<b>⑩ 財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>8,797</b>	<b>△5,650</b>
現金及び現金同等物の 四半期末残高	25,518	38,201

※詳細な財務諸表に関しては、下記のウェブサイトより、平成27年3月期第2四半期決算短債をご覧ください。

<http://www.screen.co.jp/ir/library/2015.html>

## ポイント

### ⑤ 資産合計

現金及び預金は減少しましたが、受取手形及び売掛金、保有株式の時価上昇に伴い投資有価証券が増加したことなどにより、前期末に比べ82億円(3.6%)増加し、2,406億円となりました。

### ⑥ 負債合計

借入金は増加しましたが、社債、支払手形及び買掛金が減少したことなどにより、前期末に比べ6億円(0.4%)減少し、1,446億円となりました。このうち、有利子負債につきましては、社債償還資金を長期借入金で、営業キャッシュ・フローの一時的なマイナスを短期借入金でそれぞれ賄ったことにより、107億円増加し、520億円となりました。また、有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債は、163億円増加し、235億円となりました。

### ⑦ 純資産合計

配当金の支払いの一方で、四半期純利益の計上や保有株式の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加などにより、前期末に比べ88億円(10.2%)増加し、959億円となりました。この結果、当第2四半期末の自己資本比率は、前期末に比べ2.4ポイント改善し、39.6%となりました。

## ポイント

### ⑧ 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の減少や売上債権の増加などの支出項目が税金等調整前四半期純利益、減価償却費などの収入項目を上回ったことから、124億円の支出(前年同期は76億円の収入)となりました。

### ⑨ 投資活動によるキャッシュ・フロー

研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより、31億円の支出(前年同期は28億円の支出)となりました。

### ⑩ 財務活動によるキャッシュ・フロー

社債を償還した一方で、借入金が増加したことなどにより、87億円の収入(前年同期は56億円の支出)となりました。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 3月31日 ※当社は中間配当制度を採用しておりません。
単元株式数	1,000株
公告方法	電子公告により、当社ウェブサイト (www.screen.co.jp)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

### 1. 「特別口座」に登録された株式をお持ちの株主さま

株券電子化までに証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設しました「特別口座」に登録されています。特別口座では、株式の売買が制限されておりご不便かと存じますので、証券会社に開設されました一般口座へ振替されることをお勧めいたします。お手続きの詳細は上記の三井住友信託銀行にお問い合わせください。

### 2. 単元未満株式をお持ちの株主さま

当社に対して、次の請求を行うことができます。

【買増請求】 単元株式(1,000株)に不足する株式の買増し

【買取請求】 単元未満株式の買取

お手続きの詳細は、お取引の証券会社(特別口座が開設されました株主さまは、三井住友信託銀行)にお問い合わせください。

※本誌に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、今後の世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況などにより、実際の業績などと大きく異なる可能性があります。

## 株式会社 SCREEN ホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1番地の1 電話075(414)7131  
www.screen.co.jp 証券コード7735

SCREEN NOW Vol.93 発行日:2014年12月12日(発行は3月、6月、9月、12月) 発行:広報・IR室

「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。

## 株価および出来高の推移



## TOPICS

### BioJapan 2014に出展

バイオビジネスにおけるアジア最大のイベント「BioJapan (バイオジャパン) 2014」(10月15~17日、パシフィコ横浜)に、当社の高速3D細胞スキャナー Cell*i*Mager(スリー・ディー・セル・イメージャー)とコンパクト化した姉妹機 Cell*i*Mager neo(ネオ)を出展しました。

また、3次元培養技術の優位性と、イメージングシステムによる創薬研究に関するセミナー(右写真)も同時開催し、満席となる約250名のご来場をいただきました。



UD FONT  
by HIRAGINO

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

